挑戦の伴走者に、
熱意のつなぎ役に G-net

NPO 法人 G-net

Annual Report

年次報告書
2020-2021

挑戦の伴走者に、
熱意のつなぎ役に

代表・創業者挨拶

代表理事
南田 修司

人や地域が抱える課題に向き合い、コロナ禍におけるG-netの役割を模索した1年。そして、次の10年に繋がる大きなきっかけとなる1年に。

コロナ禍に突入し、1年半が経過しました。未だ収束は見えず、大きな打撃を受けた企業も多く、また、生活や学業に影響を受けた若者もたくさんいます。G-netにおいても、17年間続けてきたホンキ系インターンシップは事業停止、就職採用支援事業に関しても根本的な見直しを迫られる状況となりました。また、全面的なオンライン対応が求められ、日常の景色そのものも大きく変わることになりました。事業立て直しへの危機感とNPOとしての役割に対する問題意識とが混ざり合いながら、模索が続いていた1年だったように思います。

そんな中、コロナ禍で経済的な打撃を受ける若者や地域社会との出会いが喪失した若者の支援、副業や兼業等の外部人材を活用した地域事業者の支援など、新たな動きも生まれてきました。これまで繋がることのなかった人と地域の関わりシロが生まれたことで、コロナ禍以前には想像もしなかった可能性も見えてきています。とはいえ、まだまだ機会を届けられる人材や企業は少なく、持続的な仕組みにもなっていません。

2021年10月にG-netは20周年を迎えます。奇しくもこのタイミングに、長年続けてきたプロジェクトが頓挫し、NPOとしての役割を再考する機会が出てきたことは、大きな宿題を与えられているのだと感じています。次の10年を迎えるいま、改めて目の前のひとりひとりや1社1社の企業に目を向け、誰のどんな困りごとを解決していくのか?に向き合うことに取り組んでいきたいです。コロナ禍で機会を失う若者、事業の立て直しに挑む企業、コロナ禍で挑戦を続ける地域の皆様の伴走者として、共にチャレンジを続けていきますので、引き続きどうぞよろしくお願いします。

創業者
秋元 祥治

G-netは2001年、10月にスタートしました。私が20歳の秋、友人達と始めた小さなトークイベントが第一歩でした。その後大晦日のカウントダウンイベントや野外ライブ・ビーンズフェスタ、フリーペーパーの発行といった取り組みを経て、ホンキ系インターンシップやミギウデ採用支援、ふるさと兼業と事業展開を進めてきました。

設立から変わらないのは、手を上げ行動する人を増やすという思い。「思いを言葉にして、言葉を行動に変えていく」そんな人の存在こそが地域を元気にすると私たちは考えます。先を見通すことが難しい今この時こそ、誰かのせいにするのでなく、自ら考え行動する。試行錯誤をくりかえし挑戦する人の存在が、今まで以上に求められていると考えています。

20周年の節目に、これまでご一緒に取り組んでくださった方、支えて下さった全ての方々への心よりの感謝を申し上げます。そして、まず私達自身が常に一歩踏み出し、行動し続ける存在でありたい。チャンレンジする人々がこの街で増え、つながり、そして社会をご一緒に元気にしていきたい、と意を新たにしました。引き続きよろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

代表・創業者挨拶 …… 2
G-net Mission / Vision …… 3
G-net History …… 4
2020→2021 Topics …… 6
Model Case …… 8
G-net Alumni …… 9
事業報告 ●若者支援プログラム …… 10
●就職・採用支援事業 …… 12
●兼業・プロボノ支援事業(ふるさと兼業) …… 13
Interview …… 14
Connection …… 16
Partner&Supporter …… 17
Partner Message …… 18
会計報告 …… 19

G-net Mission

私たちの使命

地域産業の経営革新と、担い手となる右腕人材の育成に取り組み
地域活性を支える事業を生み出し続ける

G-net Vision

私たちの目指す社会

誰もがチャレンジを保証され、支え合うことができる
そして、挑戦が評価され、連鎖する社会の実現を目指す

G-net が考える地域活性には、地域の当事者となる人材の育成と活躍するフィールドとなる産業の活性が欠かせない。しかし、ひとつひとつの成長や変化を実現させる絶対的な解はなく、時代や環境の中で常に変化を続けている。そのため、大切にしたいことは『常に挑戦的である』こと。このまちの挑戦の絶対数を増やし、挑戦の精度が高まるコミュニティを構築することで、変化や成長を実現できる地域づくりを目指していきたい。そして、地方都市岐阜から始めることで、他地域や社会全体に波及させていく。

G-net の取り組む打ち手

- ミギウデ伴走サポート
- 就職・採用支援事業「ミギウデ」
  ミギウデスカウト型合説
- シゴトフェスタ
  ミギウデ中途、日本仕事百貨、仕事旅行社
- 大企業向け研修プログラム「シェアプロ」
- ふるさと兼業
- 地域若者チャレンジファンド
- 長期実戦型インターン（6ヶ月程度）
- リモートインターンシップ／学生兼業
- 地域協働型インターン（4-6週間程度）
- 複数企業取材型インターン（シゴトリップ）
- 大学と連携した授業プログラム
- 若者が選ぶ魅力的な中小企業〇〇選
- しごとバー名古屋
- ホンネカフェ／ミギウデセミナー
- オンラインキャンパス「つながるキャンパス」
- 高校生対象「ぎふ地域留学」

事業のポイント

1. 人材が育まれる、生産性が最大化できる組織作り
2. 挑戦的なフィールドを開拓し、成長できる機会提供
3. 自身の当事者へ、そして社会の当事者へと成長できるコミュニティづくり
4. 共感を呼ぶ事例を創出し、挑戦を誘発する仕組み作り
5. 成果にコミットし、多様な組織と共創できるグランドデザイン

G-net History

第１フェーズ　主体者としてのG-net／期間限定団体(6ヶ月)として立ち上げ

('03) NPO法人格を取得

('01~'04)　カウントダウン

年越イベントを開催。

('01~)　トークライブ

全国から挑戦者を岐阜に招聘。チャレンジ精神の伝播。

('02~'07)　ビーンズフェスタ

挑戦する夢の豆が集まる年に１度の祭典。

('03~'07)　フリーペーパー

ORGAN／Beans!の発行
チャレンジする人を取材し若者へ

第２フェーズ　伴走者としての挑戦／まちづくりからひとづくりへのシフト

実践型インターンシップ／UIターン支援事業

経産省／チャレンジコミュニティ創成事業採択　('04~'06)

('04~)『ホンキ系インターンシップ』事業スタート
('10~)『地域協働系インターンシップ』事業スタート
('13~)『複業企業取材型インターンシップ』事業スタート

インターンシップフェア

10人程度から始まったフェアも100人を超えるイベントに

('07) 岐阜大学等授業開始
('08) ノウハウ移転事業 開始
東紀州地域 ('08~) 岡崎市 ('12~)
('10) 地域若者チャレンジ大賞受賞
('13) 岐阜信用金庫/百五銀行事業提携
('14) コーディネーター養成講座を他機関向け開始
('14) 名古屋学院大学現代社会学部連携
('15) 飛騨信用組合事業提携
('16) 中小企業経営革新賞受賞
('16) 名古屋商科大学連携協定締結
('18) 内閣府地方創生インターンシップ推進委員就任

創業支援・中間支援事業

経産省／創業支援フォーラム・創業塾開催　('06)

('07~'09) インキュベーションオフィス『かけたす』開所
('08~) ブラザー工業協賛『東海若手起業塾』スタート
('13~) 岡崎ビジネスサポートセンター『OKa-Biz』始動

東海若手起業塾

ボードメンバー、事務局、伴走コーディネーターを担当

OKa-Biz

創業者、秋元祥治がセンター長に就任。行列のできる経営相談所に

経産省「新連携地域資源活用プログラム」等採択('06~)／経営力向上に向け理事会改組 外部理事を招いた組織運営にシフト('09~)／東日本大震災復興支援活動('11)／みちのく復興インターンシップに参画('12)／岐阜大学「学生ラボネット」立ち上げに参画('12~)／ゴールドマンサックス中小企業経営革新プログラム('14)最多採択

第３フェーズ　伴走からコミュニティづくりへ／地域産業の経営革新と右腕人材の育成へ

就職・採用支援事業(ミギウデ事業)

中小企業の右腕に特化した就職採用支援事業をスタート

('15) 中小企業庁『UIJ ターン人材拠点事業』採択
('16~) 中部経済産業局「中部地域における地域中小企業・小規模事業者の人材確保支援等事業』採択

ミギウデ MIGI-UDE

('12~) 岐阜中小企業と若者就職白書1,2号発行
('13~) オモシロ中小企業 26 選、若者が選ぶ魅力的な中小企業 100 選発行
('14) グロービス経営大学院名古屋校と連携した社会人向けプログラム
('15) 地域中小企業に特化した合説「シゴトフェスタ」を開始
('17) 一般社団法人地域・人材共創機構が事務局を務めるCareer forに参画

兼業・プロボノ支援事業(ふるさと兼業)

都市部と地域を繋げる社会人向け事業をスタート

('20~) フリーランス協会が運営する「求人ステーション」の認定マッチング事業者として参画
('20~) トヨタ自動車株式会社先進技術開発カンパニーの研修受入(「先進☆プロボノ」)
('21~)「岐阜県プロフェッショナル人材戦略拠点」人材紹介事業者として登録

ふるさと兼業 FURUSATO-KENGYO

('15~) 日本仕事百貨、大ナゴヤ大学と連携し「しごとバー名古屋」開始
('17~) 社会人インターン「シェアプロ」開始
('18~) 中部経済産業局の事業受託に伴い「新しい働き方会議」を開催
('18~) 富士ゼロックス株式会社の研修受入（シェアプロ2期）
('19) 飛騨市、岩倉市と連携し、地域内でのふるさと兼業の導入を開始
('19) フリーランスパートナーシップアワード2019 エージェント部門大賞受賞（掛川遙香）

地域若者応援ファンド「Beans　Fund」の新設('12~)／若者と企業と地域のための研究所設立('12)／他機関との事業連携を加速／日本仕事百貨('12~)／楽天株式会社地域活性グループ('15~)／クラウドファンディングで支援を受け事務所を改装・コワーキング化('15~)／LGBTフレンドリーな組織作りを目指し社内規定を改定('16)／仕事旅行社('19~)

第４フェーズ　地域の新たなモデル創出へ／人材と企業のトータルコーディネート

個々のサービス提供から地域企業に寄り添う一気通貫型の伴走支援サービスへ移行し、企業課題を起点とした総合的な人材支援、組織開発支援を開始。また、年齢や立場に関係なく多様な形態で地域と関わることができるプラットフォーム運営に着手。全世代対応型の人材キャリア支援を本格化。

年間伴走型企業支援事業

多様な人材活用を通じた、企業課題に寄り添う支援事業をスタート。
インターンシップやミギウデ、兼業などの多様な人材活用をハイブリッドで提供する形態を本格化。

- ('19) 就職採用支援事業とインターン事業を統合。年間を通じて個別支援する「年間伴走支援」を開始
- ('19) 一般社団法人ONE Xとの協業開始　コーディネートの仕組み化に着手
- ('19) 一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会と提携し、
  兼業・プロボノ向け賠償責任保険付き福利厚生サービス「ベネフィットプラン」提供開始
- ('19) インターンシップに限定しないプロジェクト型マッチングイベント「カケタス」スタート
- ('20) コロナ禍にいち早く対応できる体制作りのための中小企業向けリモートワーク導入相談窓口を開設
- ('20) 中部経済産業局の事業受託により「多様な人材活用ガイド」リーフレットを制作
- ('21~) 中部経済産業局の受託事業により「中小企業における多様な人材の活用事例集」を制作
- ('21~) 関係人口マッチング後の定着を支援する「関係人口定着支援プログラム」と「関係人口コーディネーター養成プログラム」の提供開始

立場や年齢を超えたキャリア自律支援事業

高校生、大学生、社会人などの年齢における棲み分け、地域内、地域外などの拠点における棲み分けなど、これまで当たり前に区別して取り組まれていた事業も統合に向けて動き出しを開始。年齢や立場、住居や環境に左右されず、地域に関わることができる全世代型キャリア自律支援の取り組みへ。

- ('19) 一般社団法人地域人材・共創機構が発行するローカルキャリア白書vol-1,2にCareerfor参画団体として協力
- ('20) 高校生向けローカルリーダー育成プログラム「ぎふ地域留学」開始
- ('20) インターンシップとふるさと兼業のノウハウを活かし、大学生の新たな働き方モデル「学生兼業」を試行開始
- ('20) コロナ禍の影響を受ける若者を支援するオンライン上の仮想キャンパス「つながるキャンパス」開校
  大手企業や地域NPO等100人の社会人が高校生や大学生350人をオンライン上でサポート
- ('20) ミギウデ事業を通じて支援してきた人材のコミュニティ「ミギウデたちのslack」を立ち上げ
- ('20~) コロナ禍における学生・若手社会人の経済的支援「キャッシュフォーワーク」学生兼業

2021年度は、地域課題に向き合い、いま必要な打ち手を徹底的に模索

1. コロナ禍の影響を受ける企業や若者に寄り添い、ひとりひとりに合わせた支援に注力
2. G-netという組織単位ではなく、課題単位で多様な人材や企業と協働
3. オンラインを活用し、コロナ禍でも若者と地域が多様につながることができるコミュニティ作りを推進

社会変化を見据え、最速で挑戦・実践することで、地域全体の新たな生態系作りに貢献していきます。

G-net TOPICS

2020→2021

**この1年もG-net社内外で色々なことがありました。
ここでは、その一部をご紹介します。**

TOPIC 01 オンライン対応は〝過去の代替〟から〝コロナ禍ならでは〟へ

若者や地域企業を取り巻く環境を一変させた新型コロナウイルスの感染拡大から1年半、依然として大きな影響が出続けています。大学、企業、地域、どこもかしこも三密回避や移動制限を背景にオンライン対応を求められました。G-net自身も就職採用支援事業やインターンシップ事業の実施のほぼ全てをオンライン化することとなり、事業体系そのものの見直しを余儀なくされました。また、地域を取り巻く環境が変化する中で表面化する課題も変わり、新たなモデルづくりが必要とされることが増えてきました。

オフラインでできなくなったから、なんとかオンラインで代替しよう。
そんな出発点からはじまったオンライン対応でしたが、1年を経てその意味は変わりつつあります。後述しますが、コロナ禍での若者の経済的打撃を緩和するための有給リモート型インターンシップは、距離や場所を選ばず地域企業と関わる機会を、移動制限やキャンパス封鎖から生まれたオンラインキャンパスは、世代や距離を超えた地域と若者との交流機会を生み出しました。多くの企業はオンラインを活用した採用活動を模索し、今ではオンラインを入り口に対面とのハイブリットで若者との接点を拡大している事例も生まれています。副業や兼業という新しい働き方についても、テレワークの推進と共に副業を解禁する企業、また個人の希望者も増加し続けています。オンライン対応は、これまでの代替手段ではなく、個々人の働き方はもちろん、地域との関わり方も大きく変化させるきっかけになったように思います。

コロナ禍による大きな価値観の変化、生活様式の変化は、地域と人の繋ぎ方を多様にし、想像もしなかった可能性も生み出しはじめています。依然として課題は山積みで、まだまだチャレンジしつづけないといけない状況下ではありますが、引き続きこの環境下を活かした〝ならでは〟の展開を模索していきます。

TOPIC 02 トヨタ自動車様研修「先進☆プロボノ」をコーディネート

ふるさと兼業の仕組みを活用した研修「シェアプロ」のプログラムをもとに、トヨタ自動車株式会社先進技術開発カンパニーの社員研修を実施。コロナ禍の影響を受ける地域中小企業5社に対して15名のトヨタ自動車社員がプロボノとして参画し、事業課題解決に挑戦しました。枡製造メーカーの新規事業立ち上げや鬼瓦メーカー・漬物メーカーの新商品開発、溜まり醤油蔵のマーケティング等に取り組み、事業成果創出に挑戦しました。結果、事業成果創出はもちろん、中日新聞をはじめとした多数のメディアにも取り上げられました。
また、研修プログラムとしても社員の成長機会として効果が見られ、2021年度も継続して地域企業とのコーディネートを実施することになっています。大手企業の研修機会として、ふるさと兼業の仕組みや地域の挑戦する中小企業での挑戦が注目されてきています。

TOPIC 03

つながるキャンパス／650名超のキャンパスへ

TSUNACAM つながるキャンパス

web site

開校から約1年4ヶ月経ち、全国の高校生、大学生、社会人サポーター(連携団体、個人)合わせて現在663名が参画するオンラインキャンパスに成長しました。2020年12月にはコロナ禍の就活生応援プログラム「つなキャリ」をリリースし、多様な働き方やキャリア観にふれることをテーマに月1~2回のセミナーや社会人サポーターへ自由に相談できる1on1面談の仕組みを展開。2021年夏には、地域で意欲的に挑戦する企業や社会人がオーナーとなり、全国の学生と共通のテーマで学び合うプログラム「社会連携ゼミ」を新たに始動。世代や距離を超えて地域と若者の関わりシロが生まれつつあります。

TOPIC 04

コロナ禍の若者への経済支援プログラムを開始

web site

一般財団法人リープ共創基金の「キャッシュフォーワーク2020」事業の実行団体として、コロナ禍でアルバイト機会の減少や家庭への経済的なダメージ等で学業や日々の生活に影響を受ける若者を対象に、経済支援と成長機会の提供を両立させるプログラムを開始。中小企業のプロジェクトに有給リモートで参画できる実践型インターンシップを企画し、33名の若者の支援につながっています。移動制限下であっても実践経験と報酬を得られるプログラムとして全国からエントリー者が集まり、withコロナ時代の新たな挑戦機会として拡大しています。

TOPIC 05

大学連携／飛騨高山大学（仮称）のカリキュラム設計に参画

2024年開学を目指す飛騨高山大学（仮称）の立ち上げにG-netとして参画しています。経済・経営を主体に、全国各地（11か所）を繋げ、多様な立場の方が集い、学び合い、新たな価値を生みだす大学としての準備を始めています。G-netは、本大学の教育メゾットにおいて重要な位置づけとなる地域での双方向の絆づくりの実践教育（ボンディングシップ）プログラムの開発をはじめとしたカリキュラム作りをサポート。この夏には、本プログラムの実証実験も全国各地域にて開始しました。開学までに試行錯誤を繰り返すことで、学生と地域の双方にとってのよりよい学びや成果創出に繋がるプログラムづくりを進めていきます。

Model Case

MODEL 01 東愛知日産自動車

全国から、自律的でリーダーシップを発揮できる学生が集まる組織へ。インターン・兼業等の人材活用することで新規事業開発を推進

('17~) ミギウデ導入 /7 名の新卒ミギウデ人材採用
('18~) ホンキ系インターンシップ導入 5 名
('20~) オンラインインターン導入 3 名

具体的取り組み

1. 社内のリソースだけでは推進が難しい新規事業開発を、社外の若者とオンラインも活用し実施。採用を入口としない若者との新たな関係性を構築。
2. 新卒採用では、独自の漁場づくりに向け、新たな試行錯誤を実施。また、営業しながら企画も同時に担う「二刀流就職」を開発し、意識が高く行動力を伴う新卒社員の獲得を目指します。
3. 新卒社員に対して、各店舗の若手スタッフ育成体制を強化。店長と担当上司向けの研修プログラムを新たに推進していきます。

経営者コメント

G-netさんとの出会いは偶然でした。取引銀行のコンサル内容が全部ピンボケ。「うちの課題の採用に解があればまた聞くね」と言いました。2週間後、オカビズの秋元さんを紹介されました。出会って15分、異色の出会いと実感。その後、G-netさんに繋がりました。ミギスカ参加し、初年度は濃飛葬祭さんと超競合。なぜ？理念経営が似てたからです。面白い！G-netさんは人財業ではなく、人財を切り口に地域企業の事業を輩出し続けることが使命。そこに最大の共感をしてます！

MODEL 02 早川工業

20 人規模の町工場だからこその“新卒採用”や“リモート”に挑戦。これまでのダイバーシティ経営を土台に、より多様な人材活用で事業領域の推進をはかる

('18~) ミギウデ導入 2 名
('20~) 兼業導入 3 名
('21~) 学生兼業導入 2 名（同募集で社会人兼業者も 2 名マッチング）

経営者コメント

私たち地方の町工場にとって、人材確保は長年の課題でした。状況を打破すべく、ダイバーシティマネジメントを取り組んでいく中で、苦手とするリクルーティングをG-netさんにサポートしていただきました。3年前の右腕人材2名採用を皮切りに、今では長期インターン生や兼業人材など、多くの方々とのご縁を結んでいただいております。
夢や目標を共有し挑戦し続ける仲間として、これからもよろしくお願いいたします。

具体的取り組み

1. 任せたい業務やキャリアステップなどを明確にした募集と、一人一人に合わせた業務内容を提示する選考により、移住を含む2名の大卒人材を採用。
2. 完全リモートでの兼業を募集、3名採用。これまでCSR的な位置付けであったオープンファクトリー*の事業化、オンライン開催を共に進めました。
   *工場を開放し一般お客様向けにワークショップ等を開催
3. スポット・リモートでの人材活用の経験を経て、「学生が行きかう、学生とも仕事ができる会社に」と同時に「営業部の立ち上げ」という数年来の想いを本格始動。県内外の2名の学生とともにリモートでプロジェクトがスタート。

G-net Alumni　プログラム卒業生の活躍

MODEL 01

谷（長井）早織 さん

三井食品工業株式会社　品質管理開発部

profile

1987年生まれ、愛知県名古屋市出身。岐阜大学大学院（資源生命科学専攻）卒。ホンキ系インターン第10期生。学生時代に想いを持って事業に取り組む多くの経営者の姿から自身も地元東海地区で想いを込めたモノづくりをしたいと考え、2013年に入社から商品開発に従事。

G-netとの縁を一言で

今の考え方や働き方の土台と
迷った時に相談できる方々との出会い

地元老舗企業の社内変革と新規事業を牽引

最大月10件の新商品開発、年間100以上の商品企画販売に関わりながら、漬物離れが進む業界の課題に対して自ら顧客との繋がりや新たな顧客の需要喚起に挑んでいます。現在InstagramやWEBサイトでのアレンジレシピ発信や会社公式YouTubeの配信を開始。取材やメディア対応も一任されています。

MODEL 02

榊原由己 さん

株式会社リーピー（プロジェクトデザイン部）ライター

profile

1992年生まれ、愛知県出身。愛知学院大学文学部卒。ホンキ系インターン第17・18期生。その縁で現職の代表と出会い、アルバイトを経て新卒第1号として2015年入社。

G-netとの縁を一言で

アタリマエにとらわれず、
生き方を考えるようになったきっかけ

岐阜県内最大手までの道のりを支えた中核人材

ディレクター兼ライターとして、Webサイトや印刷物の企画・ライティング・制作進行管理などを担当。ライターとしては約250社以上のWebサイト制作に携わり、さまざまな業界においてクライアントの商品・サービスの魅力が伝わるよう奮闘しています。G-netが運営するふるさと兼業のWebサイト制作にも関わっており、地域での兼業という新しい働き方の可能性を広げられるよう、サイト構築の面からサポートしています。

MODEL 03

林 嘉音 さん

立命館大学政策科学部１年

profile

2001年生まれ、三重県多気町出身。N高等学校在学中より、G-netの高校生インターンとして約1年関わり、大学進学後は学生兼業として社内のオンライン化や高校生向けキャリア教育プログラムを担当。

G-netとの縁を一言で

思いを形にする機会と
挑戦する勇気が生まれる場所

高校生インターン第１号　社内のオンライン化加速の立役者

コロナ禍による社内オンライン化に向けたツール導入・スタッフ指導などを担う。2020年4月に開校したオンラインコミュニティ「つながるキャンパス」の立ち上げメンバーとしてガイドライン整備に力を発揮。また高校生向けのキャリア教育支援プログラム「ぎふ地域留学」の立ち上げに携わり、地元企業の魅力を発信する企画や広報を担っています。

action 1

若者支援プログラム

目指す方向性

インターンシップや学生兼業等のプロジェクト単位で参画できる選択肢の多様化と、品質基準を設けた高品質プログラムの岐阜発モデルの推進

オンラインも積極的に活用し、全国各地から若者が参画できる土壌を耕し、挑戦する企業と若者の多様な関わりを創出することで、新たな産業支援、人材育成の仕組みを生み出します。

ホンキ系インターンシップ事業のこれまで

~2019

企業と学生のwin-winを考える「ホンキ系インターン」

採用直結ではない企業課題解決型の実践型インターン「ホンキ系インターンシップ」。地方随一の実績とホンキ系をモデルとした他地域での導入支援などを実施。

インターン参加学生
延べ 823名

2020~

企業と学生の新たな関わり方を模索。ホンキ系の想いも継いだ業務委託型やオンライン参加可能なプロジェクトの募集を開始

コロナ禍で、大学の授業や学外の活動の制限がかかる中、基本は実地のみだったインターンから、リモート参加可能なプログラムの企画・伴走にも着手。
5月21日に実施したオンラインマッチングイベント「カケタス」には、全国から意欲的な100名近くの大学生が参加。リモートであっても地域に深く関わる魅力的なプロジェクトを示すことが、地域企業にとってもこれまでにない起爆剤になり得る可能性が生まれました。

インターンシップの品質基準

レッドオーシャン化するインターンシップ市場において、品質基準をチャレンジコミュニティプロジェクト等と作成、本格的に導入を開始し、大学と連携したインターンプログラムにも活用しています。また、地方創生インターンの手引きにも掲載されました。引き続き、企業や学生、大学にとって、品質が保障されるようなプログラム体制を整えていくことを目指します。

project

キャッシュフォーワーク

一般財団法人リープ共創基金が運営する「キャッシュフォーワーク 2020」の助成を受けて実施した「有給型リモートプログラム」。
コロナ禍で、アルバイト機会の減少や家庭への経済的なダメージ等で学業や日々の生活に影響を受ける若者を対象に、全国で挑戦する地域企業のプロジェクトにリモートで参画できる仕事を提供するプログラムで、2020年10月より開始しました。

point

- 期　間：6ヶ月程度
- 働き方：リモートワーク中心
- 契　約：雇用契約、準委任契約など、人材ニーズにあった形で締結

コロナ禍での移動制限や、ジョブ型雇用の流れに対応できるよう、リモートでの仕事の切り出し方や遠隔マネジメントの試行錯誤、リモートワークリテラシーの向上など、新しい働き方に向けた多くの影響を企業と若者双方にもたらしています。

参画企業数 22社
マッチング数 33名
エントリー数 延べ 106名

学生兼業

ホンキ系インターンシップでの経験や、ふるさと兼業の立ち上げがきっかけとなり、従来のインターンシッププログラムとは異なる仕組みで、2019年から本格的に試行錯誤し始めたプログラム。定期的にオンラインイベントを行い、多くの学生達への周知も実施。

point

・大学生であっても、自分のスキルや経験を活かして参画できる
・立場に関係なく評価してくれる地域企業や社会に関われる

学生と地域の新たな関わり方として、複数のマッチング事例が生まれています。また、この試行錯誤から、キャッシュフォーワークプログラムで取組む企画内容も生まれました。

事前登録者数	マッチング社数	マッチング率
27名	13社	100%

つながるキャンパス

社会人プロボノやインターン生と共に運営体制・事務局機能の強化

学生サポーターチームも発足し、新入生向けのオリエンテーションや学生同士の交流イベント企画、Slack Japan株式会社の支援による初心者向けSlack講座を企画する等、交流の基盤作りの試行錯誤をしています。

地域や多様なキャリアとの関わりシロを生み出すプログラム設計

開校当初より継続している緩やかな交流機会「つなキャン食堂」は200回を超えました。月1~2回のキャリアセミナー実施や社会人サポーターと自由に1対1で相談できる1on1面談制度の仕組みの見直し、世代や地域を飛び越えた学び会うプログラム「社会連携ゼミ」の開講など新たなプログラムを開始しています。

参加学生	協賛サポーター
520名	143名（組織・個人）

キャリアセミナー実施	15回		
サークル・チャンネル開設	31件		
開講ゼミ／参加者	12ゼミ延べ	71名	
参加者エリア	39都道府県	4ケ国（海外）	

ぎふ地域留学

大学進学や就職など20代の県外流出が続く岐阜の課題に向き合い、社会に飛び出す前に、地域や人の魅力に出会える「ぎふ地域留学」。2020年3月から、主に以下の3つのプログラムを定期的に実施しています。

◆ 実践プログラム ･･･ 地域課題に挑戦する社会人と共に参画
　－夏休み・春休み期間を中心にフィールドワーク型で年2回

◆ オンライン座談会 ･･･ 多様な地域のリアルや社会人と出会い交流
　－2ヶ月に1回程度実施。Youtube配信にも挑戦
　－実績：2020年でのべ80名以上の高校生が参加

◆ ぎふシゴト図鑑 ･･･ SNSで魅力を配信
　－高校生インターン生が、自ら取材し発信する

座談会プログラムをきっかけに、地域や企業に関心をもち、参加者でなくインターン生として「ぎふシゴト図鑑」を企画発信する高校生が生まれています。2021年度は、実践的に地域課題に挑戦するプログラムにも力をいれ、地域社会と高校生がより密につながる仕組み作りに尽力していきます。

2021年度からの取り組み

1 つながるキャンパスを起点とした日本全国の若者と地域がつながるコミュニティ基盤の強化

2021年度には参画者1000名、2023年には3000名を超える学生・社会人が集うオンラインキャンパスを目指します。コロナ禍の支援機会としてではなく、afterコロナを見据えた新しい地域や社会との繋がり方・多様なキャリアとの出会い方を生み出していきます。

2 U18世代の地域の魅力や課題に出会う機会設計に向けた教育機関・自治体との連携模索

岐阜の高校の教職員との連携を強化し、「ぎふ地域留学」の認知度を高め、高校生のキャリア教育プログラムの試行錯誤を進めています。また自治体と連携し地元の高校生と地元企業をつなぐ訪問型プログラムも拡大していきます。他機関と連携しながら、若世代を超えて目的や成長フェーズに合った機会提供ができる体制を整えていきます。

3 全国から挑戦したいという若者が集まるプロジェクト設計とモデル事例創出に注力

コロナ禍でオンライン化が急加速したことで「リモートで挑戦出来る」は前提条件とされる時代、どこからでも参加できるからこそ、この地域で、この企業で、と選ばれるプロジェクト設計が肝だと考えます。これまでのモデルに固執せず、オンラインやハイブリッドを活用した新たなモデル事例の創出に引き続き取り組んでいきます。

action 2

就職・採用支援事業

目指す方向性

人と企業とが対等なパートナーとして互いを尊重し、学びあい、磨きあえるコミュニティを作ることで、柔軟で多様な就職・採用の形を地域に生み出す。

挑戦する地域企業と意欲ある人材のコーディネートを通じた、地域や社会の課題解決と新たな価値創出を推進します。

就職・採用支援事業のこれまで

累積マッチング数 115名

2020年4月で、マッチング数は累積100名を超えました。この1年は採用市場の激化やコロナ禍の影響もありマッチングは微増に。一方で、内定者・プログラム卒業生に向けての合同研修を継続的に実施することで企業を越えた同期のつながりが醸成され、企業同士のコラボレーションによる新商品開発などが生まれ始めています。

※22卒の見込み数含む
※直接コーディネート件数のみ

定着率 69%

従業員300名未満の企業の3年定着率は60%と言われる中、事業開始からの定着率も約70%と高水準を維持してきました。しかし近年、活躍人材の離脱が起き始めており、定着率に低下が見られることから、地域企業が自社でのキャリアパスやセカンドキャリアを整備していくためのサポートが今後の課題です。

※14卒~20卒入社
※平均従業員数は約80名

伴走企業数 109社

採用戦略設計からマッチング支援、その後の定着や研修サポートなど伴走した企業数です。採用支援だけでなく、社員向け研修や社内の組織体制整備など組織開発にまで踏み込んだ支援にも力を入れ始めています。

伴走学生数 617名

地域企業への就職ありきでなく、キャリア自律を主軸としたキャリア支援、就職伴走支援を実施。低年次からプログラムに参加し、早期から企業選考を受けたり企業にインターンシップや副業兼業的な働き方で参画する事例も出始めており、通年型のモデル作りを進めています。

中小企業と交流した大学生数 7968名

引き続きコロナ禍の影響を受ける中、オンラインを中心に継続した出会いや接点機会を創出。オンラインの活用で、地域中小企業にとってこれまで候補にならなかった地域や意欲ある大学生との交流が生まれています。

※15卒~22卒の大学生と企業とのイベントでの総交流数（概算）

全国の大学生がオンラインで地域中小企業と繋がっていく

コロナ禍の影響により大学生も含めて地域への関心が高まり、働き方に対する価値観がより一層多様化しています。誰のためが明確な仕事、持続可能性や地域課題への貢献、多様な働き方への柔軟性など、地域中小企業の価値をオンラインで繋ぐことで、全国の熱意ある学生達の関心が高まり、マッチングしていく可能性を追求しました。

2021年度からの取り組み

1. 【通年採用支援、自社採用市場形成支援へ】（昨年度から継続して新たに注力すること）
就活スケジュールが廃止・形骸化する中、地域中小企業が、人が"集まる"企業に変化していくため、G-netならではの通年型の人材活用モデルの開発に取り組みます。単なる早期採用（青田買い）ではなく、企業と若者の接点を多様化し関わりシロを広げることで、企業と若者の学び合いや交流を生み出し、長期的な関わり合いから就職採用へ繋がっていく形を模索します。

2. 【メンバーシップを生み出すジョブ型採用モデルの試行錯誤や、ミギウデ人材のマッチングモデル見直しに着手】
従来通りの大卒採用・給与体系・雇用形態等に縛られるのではなく、プロジェクトベースでの採用や業務委託、有期雇用など多様な形態によるミギウデ人材の活用モデルの創出に地域企業と共に取り組みます。意欲ある人材と地域企業との関わりシロを拡大することで、柔軟で幅広いミギウデ人材のマッチング創出を目指します。

兼業・プロボノ支援事業（ふるさと兼業）

action 3 目指す方向性

誰もが、立場や置かれた環境に左右されずに、愛着ある地域や事業に参画できる環境を作り、新たな地域作りの土壌を生み出す。

全国各地のNPO等と連携し、日本中の地域と人材を繋ぐ地域密着型プラットフォームを構築することで、より地域全体への波及効果を高めていきます。

地域企業と人を共感と熱意を起点につなぐ兼業マッチング事業「ふるさと兼業」

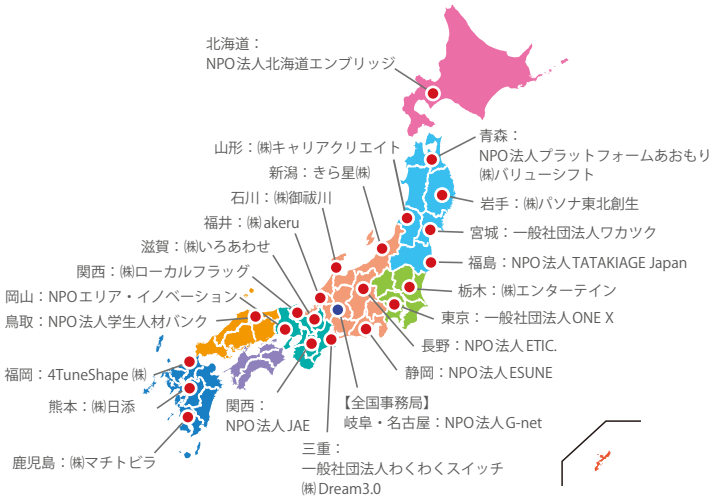
2018年9月のサービス開始から、全国各地で約250件の兼業プロジェクトを募集し、海外在住の方も含む約500名がプロジェクトに参画。コロナ禍の影響で一時的にプロジェクト掲載数は鈍化しましたが、最終的にはプロジェクト掲載数は昨対比約1.3倍、エントリー者数は約1.8倍に拡大、登録者は5000人を超え、4倍以上に成長しました。
2021年4月より、岐阜県プロフェッショナル人材戦略拠点の登録事業者として、岐阜県下の中小企業の副業兼業人材活用の更なる推進に取り組んでいきます。

ふるさと兼業 FURUSATO-KENGYO

エントリー人数 973名　掲載プロジェクト数 120件　マッチング率 95%
地域パートナー 24団体　登録者数 5100人　マッチング人数 269人

2020年度(2020年6月~2021年5月)の実績

全国のふるさと兼業地域パートナー



大手企業社員×地域中小企業経営課題に取り組む実践型社員研修プログラム「シェアプロ」

大手企業の若手社員や幹部社員の社外研修として「ふるさと兼業」の仕組みを活用した「シェアプロ」型研修へのお問い合わせが増えています。
地域中小企業をフィールドに、ビジネス全体の俯瞰とスピード感ある事業作りに挑める実践型研修プログラムとして、大手企業を中心に関心が高まっています。2020年はトヨタ自動車株式会社先進技術開発カンパニーの社員15名がシェアプロ型実践研修「先進☆プロボノ」に参加し、東海地方の中小企業の経営課題の解決に取り組みました。

2021年度からの取り組み

1. 日本中で副業兼業に挑戦できる環境作りに向けて、引き続き地域パートナーの拡大を進めます。同時に、地域企業そして参画者の方たちへよりよいサービスを提供するため、連携する地域パートナーへの支援体制を整え、ふるさと兼業の質の向上、ネットワークとしての強みを活かせる組織体制の整備に着手します。
2. 副業兼業の効果的な活用を支援する「コーディネート機能」への注目が高まる中、地域内で多様な人材の活用を推進するコーディネーター人材の育成に着手します。2021年は、コーディネーターの役割や支援プロセス等を体系的に整理し、知見やノウハウをもった地域内コーディネーターを育成するための研修や実践に取り組みます。
3. 法政大学大学院石山研究室をはじめとした教育機関と協働し、副業兼業を受け入れた地域企業や社員の意識変化について研究を進めます。外部人材の受入価値を明確にし、またより良い活用ノウハウを明らかにすることで、副業兼業の地域への導入を推進します。

Interview

挑戦の場をつくり続けることで生まれ、育まれたG-netの“価値”とは

設立20周年を迎える2021年は、G-netにとって次なる10年に向けて新たな一歩を踏み出す節目といえます。G-netを応援している方たちは、G-netの「これから」にどんな期待を寄せているのでしょうか。今回は、長年にわたってG-netとの関わりを深める、昭和技研株式会社の田中禎一さんと岐阜大学の髙木朗義さんに、思うことをざっくばらんにお話しいただきました。

“地域”を軸に、多種多様な人がつながり合う場をつくってきたG-net

―おふたりはそれぞれ、G-netとは10年以上のお付き合いだそうですね。

田中：僕は2005年頃、G-netが当時発行していたフリーペーパーを手にしたのが出会いのきっかけでした。「ホンキ系インターン」の紹介記事は特に心に残っていて、思わず事務所にアポ無しで突撃。その際、応対してくれたのが前代表理事の秋元さんです。めちゃくちゃ情熱的な話しぶりで、突然の訪問にも関わらず、気づいたら当社でもインターン生を受け入れることが決まっていましたね。

髙木：私は2008年頃からのお付き合いです。ある時、お世話になっていた先生から「会ってほしい若者がいる」と紹介されたのが秋元さんでした。初対面ながら「一緒になにかできたら面白いだろうな」と思わせるパワーがみなぎっていて、それから何かと持ちつ持たれつの関係が続いています。G-netの事務所にも出入りするようになってからは、岐阜大学の他学部の学生や、地域の経営者の方々との関わりもできて、私自身どんどんつながりが広がっていくのを感じました。

―関わりを通じてつながりが広がっていくのは、G-netの特徴のひとつと感じます。

田中：今でこそ学生インターンの支援活動を行うNPOは全国に登場しています。その中でG-netが第一人者の立ち位置にいるのは、学生と地域の経営者との関係性を築くことはもちろん、経営者同士のつながりを生み出す土壌も、丁寧に育んできたからだと思います。

髙木：禎一さんがフェアなどを終えた後の懇親会で口にする「ここからが本番です」ってフレーズ。あれはまさにそのとおりって感じですよね（笑）。

―フェアを終えてからが、本番？

髙木：フェアに参加した人が、懇親会ではごちゃまぜになってわいわい楽しんでいるんです。G-netの名物的な光景ですね。

田中：例えば、学生がインターン先とは別の企業の経営者とつながりを持ったり、経営者同士でインターン受け入れ時の悩みを共有し合ったり。ときには企業コラボが実現することだってあります。その場にいる人同士が年齢や立場などの垣根なく、つながりをつくっていくんです。

―確かに、私も「シェアプロ」に参加した際、懇親会でのやり取りがかなり濃いなと感じました（笑）。その場でいきなり経営者の方から「ちょっと相談したいことがあって！」と声をかけられたときは、驚きつつもうれしかったですし。

髙木：立場も考え方も異なる人たちが垣根なく関係し合う、先験的な組織形成が生まれていくのが、G-netらしさになっていると感じます。

田中：ただ、はじめのうちはなかなか集まらなくて。参加する学生も企業も少なかったですから、僕は率先して経営者一人ひとりに懇親会にも参加しようと声をかけて回っていました。なんでそこまでしたのかといえば、僕が学生時代に先輩後輩や同期との関わり合いの中で、自分の考えややりたいことを見つけていったからなんですよね。多種多様な人が関わり合うのって、それだけで価値がある。そう信じているからこそ、みんなで楽しむ時間も大事にしたいんです。

［登壇者プロフィール］

（左）髙木 朗義
博士（工学）／岐阜大学社会システム経営学環教授

1999年36歳で建設コンサルタントから岐阜大学工学部講師へ転職、助教授を経て2006年教授に。2021年岐阜大学社会システム経営学環設置に伴い異動。他にも岐阜大学減災研究センター、地域環境変動適応研究センターの副センター長など学内４研究センターの教授を兼務する。専門は「まちづくり」で、メディアにも多数出演。2019年G-net監事に就任する。

（右）田中 禎一
昭和技研株式会社代表取締役

大阪教育大学卒業後、岐阜県外での就業を経て地元・大垣に戻り、廃棄物処理業を営む昭和技研株式会社に入社。2008年代表取締役に就任する。さまざまな市民団体の取り組みに参画するなど、社内外問わず精力的に活動し、G-netでは2007年より理事を務める。また、大学時代に発達人間学を専攻していたことから、「教育」と「環境」の融合も夢見ている。

仕組みにとらわれず、ひたすらに“活躍”や“チャレンジ”の応援に力を尽くしてほしい

―G-netでは近年、「ふるさと兼業」の展開にも力を注ぐなど、学生に限らず多種多様な“人”の活躍を後押しする存在となってきていると感じます。

田中：当社でも2年ほど前から兼業者を受け入れ始めています。入れ替わりで、インターン生の受け入れはいったん区切りとしました。10年以上インターン生を受け入れてきた中で、だんだんとインターン生にも変化が見られるようになり…。新たな挑戦として兼業人材の受け入れに舵を切ったんです。

髙木：今や良くも悪くも「インターンに参加するのが当たり前」になってしまったんでしょうね。とにかくチャレンジしたいからという理由でインターンを選ぶ学生が減っていると感じます。

田中：考え方を変えれば、もはやインターンという「仕組み」にこだわる必要はなくなったのだと思います。例えば2020年にスタートした「つなキャン」は、学生が地域企業の経営者や、会社員やフリーランスといったさまざまな「働くひと」とつながり、刺激し合う場となっています。地域との接点をつくったり挑戦したい人に寄り添ったりするための仕組みはひとつじゃない。そんな可能性を感じますね。

髙木：G-netの変わらぬ目的は、若者のチャレンジの場を創出することで地域を元気にすること。これを大事にしていれば、手法にとらわれる必要はないと思います。

―改めて、G-netの強みって何でしょうか？

髙木：やっぱり、一番の強みは伴走支援ですね。経営者であれば、第三者視点から会社の強みや弱点などを客観的な指摘が得られ、理念に立ち返るきっかけにもなります。学生や社会人にとっても、社会が多様化し、働き方や社会に出る方法も一様とは言えなくなってきた今、もっと本質的に「やりたいこと」を言葉にしていく重要性が高まっていると感じます。けれどその機会がない。その時、頼りになるのが伴走者だと思うのです。言語化は簡単ではないですし、苦しい思いをする若者も少なくないでしょう。けれど、「やりたい」という思いがはっきりすれば、実現しやすくなったともいえます。だからこそ丁寧に「やりたい」と向き合って、言葉にしていくプロセスはとても重要になってくると思います。

田中：G-netと関わり始めたことで、私自身経営者としてその人の良さを引き出す難しさと大切さを強く意識するようになりました。誰にでも良いところはある。けれど、人の才能なんてパッと推し量れるものではありません。大事なのは、良さをどう引き出して、伸ばしていくか。そのプロセスの中で、一番身近な第三者といえる、伴走者の存在は大きいと感じます。

節目を迎えた今こそ、G-net自身のチャレンジに期待したい

―今後のG-netにどんなことを期待しますか？

髙木：岐阜には、規模は小さくても長い歴史を持つ、伝統産業や地場産業を営む企業がたくさんあります。そういった企業こそさまざまな困り事を抱え、G-netの強みである伴走者の存在を求めているでしょう。だからこそ、もっともっと「広がり」を持たせることに取り組んでもらえたら、と思いますね。

田中：社会はものすごいスピードで変化しています。方法論も多様化し、今までの成功体験はあっという間に通用しなくなるでしょう。そういった意味では、G-netにとって次の10年というのは難しい局面からのスタートとなるといえます。だからこそ、次なるチャレンジに期待したいです。ここ数年でG-netの社会的な認知度はぐんと高まった一方で、だんだんと「かしこまってきた」ようにも感じています。組織が成長する中で当然起こり得る変化といえますが、それでもG-netは今もなお社会全体において「先を行く」という印象を与える存在だと思っています。まだまだ、落ち着くようなタイミングじゃない。もっと情熱的に、誰も見たこともないような一手に挑戦してもらいたいです。

髙木：今こそ原点といえる「思いを言葉に、言葉を行動に」という言葉を、G-netに贈りたいです。いわば裏方のような立ち位置ともいえる伴走者にも、確固たる思いはあるはず。G-netが大事にする思いは何なのか、それを実現するためにどんな行動が必要なのか。今一度目を向け、体現することが、G-netという組織全体の原動力となるのではないでしょうか。

［聞き手プロフィール］

伊藤 成美（ライター）
ウェブメディア運営会社への転職を機にライター職に就き、記事執筆の経験を積む。「培った技術を社外でも発揮したい」との思いから、2018年にG-net主催「シェアプロ」に参加。プロボノ・副業の経験を通じて独立を決意し、2020年よりフリーランスで活動する。

Connection

G-netとの5つの関わり方

1 インターン・兼業・プロボノ

大学生も社会人の方も、インターンや兼業者・プロボノとして地域の企業プロジェクトに参画できる機会を提供しています。

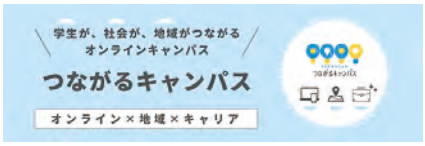
また、G-netでも多様な働き方、関わり方で仲間に加わって下さる方を募集しています。

web site

2 つながるキャンパスに参画

全国の高校生や大学生を始めとした学生は無料で参加できるオンラインキャンパス。共に企画や運営する協働パートナー(サポーター)として、社会人の方や地域団体・企業の方も参画いただけます。

つなキャン生、学生サポーター、社会人サポーター、事務局メンバー(プロボノ)と多様な関わり方を選択できます。



web site

3 個別キャリア面談

コーディネーターと1対1でキャリアに関する相談(無料)を行っています。

つながるキャンパスでは、コーディネーターだけでなく多様な社会人サポーターとの1on1制度も活用できます。

ミギウデ MIGI-UDE

4 イベント／セミナーに参加

毎月2~3回のペースでキャリアセミナーや地域での兼業事例勉強会などを開催しています。

新しい一歩を踏み出そうとしている学生、若者、事業者様に向けて多様なイベントやセミナーを実施しています。

最新情報はこちらからご確認ください

イベント・セミナー一覧

5 寄付サポーター

G-net サポーターとして、チャレンジを支えていただけますよう、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

● 継続寄付

1）コロナ禍の高校生・大学生救済応援寄付　1,000 円 / 月

2）G-net チャレンジサポート賛助会員

個人会員 ……1,000 円～/ 月　12,000 円～ / 年

法人会員 ……5,000 円～/ 月　60,000 円～ / 年

● 単発寄付

1）コロナ禍の高校生・大学生救済応援寄付　1,000 円 / 口

2）G-net チャレンジ応援寄付　3,000 円 / 口

3）ビーンズファンド　3,000 円 / 口

● 協働サポーター

『つながるキャンパス』の協働サポーター参画　1,000 円 / 月

ご支援方法

クレジットカード決済対応

https://kessai.canpan.info/org/gnet/

web site

銀行振込の場合はこちら

Google form

年間一括銀行振込

銀行名　十六銀行
支店名　柳ヶ瀬支店
口座番号　普通　1550777
口座名　トクヒ）ジーネット

Partner & Supporter

協働パートナー＆サポーター（組織・事業）

パートナーの皆さまとの連携例

● 社員研修プログラム／大手企業

大手企業 × 地域企業＝シェアプロ型研修

「ふるさと兼業」の仕組みを活用した社外研修プログラム「シェアプロ」。
2020年度は、トヨタ自動車株式会社先端技術開発カンパニーと地域企業による週1日×3ヶ月のプロボノ型研修プログラムを実施しました。

● キャリア教育プログラムやカリキュラム設計／教育機関

大学内インターンシッププログラム／キャリアセミナーの設計

ホンキ系インターンシップや学生兼業のノウハウを活用した大学内のカリキュラム作りをサポート。2020年度は2024年開学予定の飛騨高山大学（仮称）の実践型プログラム「ボンディングシップ」の設計支援を実施しました。

ぎふ地域留学

夏休み・春休み期間に岐阜県内の企業・団体でのフィールド型プログラムを実施しています。
2ヶ月に1回程度、岐阜県で働く魅力的な社会人をゲストに迎え、オンラインの座談会を開催しています。

● 関係人口や地域企業の多様な人材活用事業／行政・自治体、地域企業、NPO団体

つながるキャンパス

全国31団体、個人も含め140名を超える社会人と協働し、オンライン上のキャリアセンターを開設。大学教員と連携した授業やSlack Japan株式会社の実施イベントでの登壇など実施しました。

多様な人材の活用事業

行政の地域事業者支援や関係人口の創出支援の一環で、ふるさと兼業を活用した事業を実施。2020年度は、自治体が運営するECサイトの担い手募集や、地域企業のコミュニティづくりを支援しました。

連携機関のご紹介

連携企業・団体

一般社団法人プロフェッショナル＆パラレルキャリア・フリーランス協会
株式会社ガクトラボ
NPO法人新公益連盟
一般社団法人地域・人材共創機構
認定NPO法人D×P
株式会社シゴトヒト（日本仕事百貨）
一般社団法人東海若手起業塾実行委員会
一般社団法人地域問題研究所
NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティー・ネットワーク（大ナゴヤ大学）
NPO法人コラボキャンパス三河
株式会社まんまる笑店
チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト
求人ステーション(認定事業者)
株式会社人と土

金融機関

岐阜信用金庫
百五銀行
飛騨信用組合

大学・教育機関

名城大学 社会連携センターPLAT
名古屋産業大学
名古屋商科大学
名古屋学院大学
法政大学大学院石山研究室
飛騨高山大学（仮称）

行政・自治体

中部経済産業局
岩倉市役所
豊田市役所
飛騨市役所
一般社団法人白川町移住交流サポートセンター

ふるさと兼業地域パートナー

NPO法人北海道エンブリッジ
NPO法人プラットフォームあおもり
株式会社バリューシフト
株式会社パソナ東北創生
一般社団法人ワカツク
NPO法人TATAKIAGE Japan
株式会社キャリアクリエイト
株式会社エンターテイン
きら星株式会社
一般社団法人ONE X
NPO法人ETIC.
NPO法人ESUNE
株式会社御祓川
株式会社akeru
一般社団法人わくわくスイッチ
株式会社Dream3.0
株式会社いろあわせ
株式会社ローカルフラッグ
NPO法人JAE
NPOエリア・イノベーション
NPO法人学生人材バンク
4TuneShape株式会社
株式会社日添
株式会社マチトビラ

Partner Message

伊藤淳司氏　NPO 法人 ETIC.（エティック）ローカルイノベーション事業部 事業部長

G-netさんとの出会いは2004年。経産省との協働でスタートした、挑戦する地域の生態系を生み出す「チャレンジコミュニティプロジェクト（通称：チャレコミ）」で、長期実践型インターンシップのコーディネート事業に挑戦し始めた時からです。以来、多くの「地域発」「地域初」の取り組みを立ち上げられ、その取り組みは別の地域にも拡がり、全国のコーディネート機関の仲間も約80地域になりました。先日、G-netさんの取り組みを関係者の皆さんに取材をして事例紹介の動画を製作させて頂きましたが、その動画は擦り切れるほど（?）使わせてもらっています！バトンを受け継いだ南田さん、田中勲さん、バックオフィスを支える加藤美奈さんをはじめ、多くのメンバーが多様な関わり方を実現しながら挑戦を続けるG-netさんとこれからも新しいことをどんどん仕掛けていきたいと思っています。

加藤栄司氏　一般社団法人地域問題研究所　研究理事　／　愛知県交流居住センター　事務局長

20周年おめでとうございます。チャレンジングで常に進化を続ける若々しいG-netが20年もの長い年月を積み重ねてきたとは驚きです。出会いは秋元さんが三十路を迎えようとしていた2009年。（一社）地域問題研究所の総会記念シンポジウムにご登壇いただいた時だったと記憶しています。テーマは、「中部の明日を切り拓くまちづくりの若きリーダー達の挑戦」。ホンキ系インターンシップ事業等について立て板に水のごとく話す秋元さんの熱量とキレ味の良さに衝撃を受けました。その後、中小企業庁「UIJターン人材育成拠点事業」の協働事業者として当研究所がかかわらせていただく機会を得ました。また、代表が南田さんに移行してからも関係性は続き、昨年度からは愛知県交流居住センターの対象エリアである三河山間地域で「ふるさと兼業事業」を展開中です。ミスマッチングをベストマッチングに変え、地域活性化につなげている伴走支援のプロ集団・G-netの今後に期待するとともに、あいちの山里における関係人口づくり、移住定住を共に進めていただきたいと願っています。

井上博成氏　飛騨五木株式会社　企画研究室長　／　一般社団法人飛騨高山大学設立基金　代表理事

G-netさんとの出会いは、飛騨五木㈱を創業した2015年頃だったと記憶しています。当時、採用について右も左もわからなかった私に、G-netさんが力強く人材面でサポートしてくださいました。当時から続く人材面でのサポートは、現在のグループ全体の採用における考え方の基礎をつくっていただいたといっても過言ではありません。多くの若手社員から中堅、そしてプロボノの方まで様々な方がG-netさんをきっかけにグループに関わって頂いています。

また、2020年からは、私の夢でもあった、飛騨高山大学（仮称）設立に向けて、共に取り組んでいます。主には学生の【実践】領域における品質基準の在り方や、開学後の様々な検討事項について日々惜しみないサポートを頂いています。大学設立（教育）を通じた、地域経済へのコミットという、一見ハードルが高いチャレンジにも共感頂き、南田代表をはじめ棚瀬さん、その他メンバーの皆様の存在に日々力強く後押しされています。更なるチャレンジへのサポートを、今後ともよろしくお願いいたします！

今永典秀氏　名古屋産業大学　現代ビジネス学部　経営専門職学科　准教授　地域連携センター長

G-netは、長期実践型インターンシップをはじめ、ミギウデ事業、ふるさと兼業、つながるキャンパスと事業を幅広く展開しております。今や、地域の中小企業の経営革新のためのワンストップサービスが実現できる唯一無二の存在になりました。インターンシップ、採用、研修、定着支援、企業内外での活躍、これらの全てに関連し、さらにはオンライン環境を駆使した学び合いの場を提供しています。私の所属する名古屋産業大学の専門職大学の枠組みを活用した経営専門職学科でも連携予定でもあります。これからの社会に必要不可欠な最先端な位置にいるG-netの今後の発展にますます期待が膨らみます。昨今は多くの人たちが兼業やプロボノでパラレルキャリアの１つとして関与することが増え、パワーアップしていることを強く感じます。

竹井もゆこ氏　コーン・フェリー・ジャパン株式会社　コンサルタント

「つながるキャンパス」は、全国の高校生・大学生が多様な地域、キャリアに出会い、学び、新しい社会のあり方の探求と実践をするオンラインキャンパスです。それを2020年4月の開校以降、G-netおよび130名を超える協働サポーターの社会人とともに運営してきました。G-netは、誰も想像しなかった変化に直面する社会を、傍観者として俯瞰するのではありません。当事者として新たな未来を切り拓こうとするG-netの姿に、いつも鼓舞されています。岐阜から始まったあらゆる人のチャレンジを支えるG-netのコミュニティの影響範囲は、今や岐阜だけにとどまりません。オンラインを活用したプロジェクトを通じて距離に関係なく、地域を超え、国をも超えた広がりをみせようとしています。人が挑戦を支え合い、それが連鎖するような世界を、今後も一緒につくっていきたいと思います。

2020 年度会計報告（2020 年 6 月 1 日～ 2021 年 5 月 31 日）

総括

2020年度は収益が7,569万円（前年度比約9%減）、支出は7,023万円（前年度比約17%減）、正味財産増減額は545万円でした。
新型コロナウイルス感染症拡大を受け、自主財源収益は前年度比62%となりました。当初より自主財源収益は減少することが予想され、また、国の兼業副業に関する事業推進の後押しと、コロナ禍に伴う各種支援により、行政受託収益は前年度比120%、補助・助成収益も前年度比121%と、積極的に活用し事業を進めてきました。加えて、事業運営のリモート化により、事業費の大幅な減少（主に、旅費交通費は約300万円減、会場費は約200万円減、会議費は約100万円減）となり、結果的に、減収・増益となりました。
今期の利益は、翌期以降の活動にあてて参ります。より積極的な事業推進ができるよう、体制づくりにも努めて参ります。

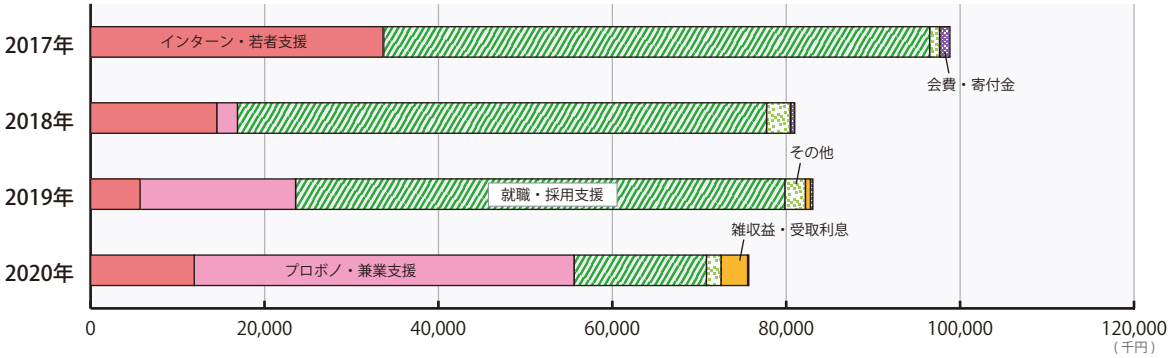
収支推移

	（前年比）	2020 年		2019 年	2018 年	2017 年
収益	91%	75,696,828		83,065,894	80,981,034	98,459,819
支出	83%	70,239,212		84,376,498	80,752,827	83,841,107
正味財産増減額	–	5,457,616		-1,310,604	228,207	14,618,712

収益種類

	（前年比）	2020 年	（全体に占める割合）	2019 年	2018 年	2017 年
自主財源	62%	25,481,099	33.7%	40,920,224	45,186,544	56,591,503
行政受託	120%	37,110,644	49.0%	31,016,749	31,790,799	35,863,089
補助・助成	121%	12,753,030	16.8%	10,558,519	4,000,000	6,000,000
その他	62%	352,055	0.5%	570,402	3,691	5,227

全体・事業別収益の推移



	2020 年	2019 年	2018 年	2017 年
インターン・若者支援	11,919,820	5,685,969	14,508,693	33,630,483
プロボノ・兼業支援	43,671,976	17,881,091	2,374,884	0
創業支援・中間支援	0	0	0	64,815
就職・採用支援	15,231,820	56,278,233	60,860,743	62,796,238
その他	1,691,561	2,366,955	2,745,902	775,741
雑収益・受取利息	3,040,051	570,402	423	373
会費・寄付金	141,600	283,244	490,389	1,192,169

2020 年度　活動計算書

科目	金額（円）
Ⅰ　経常収益	
1．受取会費	123,000
2．受取寄付金	322,461
3．受取助成金等	14,535,030
4．事業収益	60,364,282
5．その他収益	352,055
経常収益計	75,696,828
Ⅱ　経常費用	
1．事業費	69,006,659
2．管理費	1,232,553
経常費用計	70,239,212
当期正味財産増減額	5,457,616

2020 年度　貸借対照表

科目	金額（円）
Ⅰ　資産の部	
1．流動資産	72,345,862
2．固定資産	673,784
資産合計	73,019,646
Ⅱ　負債の部	
1．流動負債	5,689,363
2．固定負債	36,430,600
負債合計	42,119,963
Ⅲ　正味財産の部	
正味財産合計	30,899,683
負債及び正味財産合計	73,019,646

20th

NPO 法人 G-net

〒500-8844 岐阜市吉野町 6-2 ブラザービル 2 階　TEL 058-263-2162　FAX 058-263-2164

https://gifist.net　G-net　検索